



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                     |                                                                                                                                                                                  |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title               | 楚ト笹祭禱簡における宗教儀礼と鬼神信仰に関する研究                                                                                                                                                        |
| Author(s)           | 趙, 珊                                                                                                                                                                             |
| Description         | この博士論文の全文は利用可能日以降に公開されます。利用可能日以前の閲覧方法は <a href="https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/">https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/</a> をご参照ください。 |
| Degree Grantor      | 北海道大学                                                                                                                                                                            |
| Degree Name         | 博士(文学)                                                                                                                                                                           |
| Dissertation Number | 甲第16970号                                                                                                                                                                         |
| Issue Date          | 2026-03-25                                                                                                                                                                       |
| DOI                 | <a href="https://doi.org/10.14943/doctoral.k16970">https://doi.org/10.14943/doctoral.k16970</a>                                                                                  |
| Doc URL             | <a href="https://hdl.handle.net/2115/99814">https://hdl.handle.net/2115/99814</a>                                                                                                |
| Type                | doctoral thesis                                                                                                                                                                  |
| File Information    | Shan_Zhao_review.pdf, 審査の要旨 <a href="https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</a>                                              |



# 学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

氏名： 趙 珊

|             |         |
|-------------|---------|
| 主査 教授       | 近 藤 浩 之 |
| 審査委員 副査 准教授 | 吉 田 勉   |
| 副査 教授       | 林 寺 正 俊 |

## 学位論文題名

楚卜筮祭禱簡における宗教儀禮と鬼神信仰に関する研究

### ・当該研究領域における本論文の研究成果

本論文では、戦国期楚国において展開した卜筮・祭禱実践を、出土竹簡・傳世文獻・考古資料を総合的に用いて分析し、楚人が想定した鬼神世界の構造と、そこにおける宗教儀禮の運用實態を明らかにしている。包山・望山・天星觀・秦家嘴・新蔡葛陵など各墓葬における卜筮祭禱簡を横斷的に比較し、楚人の鬼神信仰と宗教儀禮の多様性と共通性を明らかにし、卜筮祭禱簡に現れる祖先神・自然神・土地神・厲鬼などの諸範疇を再整理した。そして、卜筮祭禱簡に見られる祭禱方式を、傳世本および竹簡本『金縢』に描かれた儀禮實踐と對照し、兩者の比較検討から、從來十分に説明されてこなかった歴史的問題に對して新たな解釋可能性を提示することに成功している。とりわけ以下の四點を、新しくユニークな観點と方法によるものとして高く評價できる。

①卜筮祭禱簡が隨葬されたことは、先秦期における楚人の生死觀・鬼神觀・祖先祭祀制度が葬送實踐の中で具體化した結果であることを示し、そこに記されるのは抽象的概念ではなく、墓主が疾病・凶禍・運命の不確實性に直面して實際に行った占筮と祭祀の記録であり、個人の祈願と畏怖、そして楚人が鬼神秩序を理解し人鬼關係を維持しようとした具體的方途を映し出すものであることを明らかにした。

②包山卜筮祭禱簡における「凶攻解」の語彙および用例の分析を行い、「凶攻解」を「攻をして解せしむ」と讀みうることを、すなわち「攻」（巫祝と類似する職能者）が鬼神との交渉を通じて占筮依頼者の憂患を他所へ轉移させる一種の移崇法であり、しかもそれが豫備案として位置づけられていることを導き出した。（祟りを根本的には除去しえないものと捉え、祖先神らの加護を祈願しても不十分な場合に、「凶攻解」によって祟りの轉移を圖る方策があることを指摘した。）

③天星觀卜筮祭禱簡における鬼神信仰を、祭祀對象の再分類と事例分析を通じて検討し、祭祀對象を祖先・神祇・厲鬼の三類に區分するのが妥當であるとした。そして、新蔡葛陵楚墓から出土した卜筮祭禱記録と遺策を手がかりに、楚の先祖である楚先・三楚先、荊王および平夜君成の祖先體系などに關する記述を総合的に分析し、「我先」「楚先」「三楚先」「荊王」「五世」「三世之殤」「上下内外鬼神」といった表現の検討を通じて、楚王室および封君層の祖先觀と神靈階層の構造を明らかにし、卜筮祭禱簡における祖先祭祀や宗族秩序の枠内の位置づけについて論じた。

④卜筮祭禱簡との比較を通じて、清華簡『金縢』における祭祀儀禮を検討し、「穆卜」は身代わりによる解決策を採用すべきか否かを問う占問であり、その實踐内容は卜筮祭禱簡に見える「凶攻解」と對應する一方、「穆卜」が事前の占問、「凶攻解」が吉兆を得たのち専職の（攻）執事人によって行われる移崇儀禮という區別があることを指摘した。また、包山二・三一簡「凶攻祝歸佩軛・冠帶於南方」について、清華簡『金縢』の句と對照して讀むことにより、從來難解とされてきた記述を、南方に特設した壇に佩飾を獻じる儀禮として再解釋しうることを指摘した。

なお、第二章の主な内容となった論文は『日本中國學會報』第76集（日本中國學會、2024年）に掲載されて高い評價を受けたものである。第三章は『中國哲學』第51號（北海道大學中國哲學會、2024年）に、第四章は『中國哲學』第52號（北海道大學中國哲學會、2025年）に掲載済みですすでに一定の評價を得ている。第六章は中國出土資料學會での研究發表および『中國出土資料

研究』への投稿を豫定している。ほかの序論、第一章、第五章、結論は書き下ろしである。

・学位授与に関する委員会の所見

審査の過程において、若干の用語の修正や、参考文献一覧の表示の仕方、引用する文献資料の略称などについてわかりやすくする工夫が求められたが、いずれも論文の体裁にかかわることに過ぎず、本論文の優れた成果と価値を本質的に損なうものではない。

以上に基づき本審査委員会は、本論文に示された申請者の研究成果を高く評価し、全員一致で本論文が博士（文学）の学位を授与するにふさわしいものであるとの結論に達した。